第1回日本LCA学会研究発表会報告(速報)

平尾 雅彦・田原 聖隆

Conference report on the first meeting of The Institute of Life Cycle Assessment, Japan

Masahiko HIRAO and Kiyotaka TAHARA

1. はじめに

第1回日本LCA学会研究発表会は、平成17年12月1日(木)～2日(金)の2日間、(独)産業技術総合研究所の共催を得て、同所つくばセンターにおいて開催された。本号では、速報として概要を報告する。

2. 発表会の概要

山本会長からのお言葉によるオープニングに引き続き、基調講演3件、一般講演139件(うち、ポスターのみ21件、口頭ポスター両方13件)の発表が行われた。一般講演のうち口頭講演は、24のテーマ別セッションで発表され、1日間は5会場、2日目は4会場に分かれて活発な議論が行われた。ポスター発表は、会場内ホワイエで行われ、発表者と参加者の間で密な議論が行われた。

発表申込や要旨原稿投稿は、(独)科学技術振興機構によって運営されている「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を利用し、すべてインターネットを通して行った。要旨はWebで公開するとともに、参加者には印刷冊子として配布した。

参加登録者は合計287名(うち学生65名)であり、開催時点での正会員数を超える参加があった。1日目の終了後は、会場に隣接する厚生センター食堂で交流会が催された。

山本会長によるオープニング

3. 基調講演

基調講演として、日本におけるライフサイクルアセスメント研究と実践を牽引してきた3氏による包括的な講演が行われた。

稲葉敦氏 「我が国の環境問題の動向とLCA」

伊香賀俊治氏 「建築物のLCA・LCCの同時評価ツールの国・自治体・企業での活用状況」

中村慎一郎氏 「LCAとLCCとMFA：産業連関分析手法による統合と展開」

平尾 雅彦／東京大学大学院工学系研究科／〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
田原 聖隆／独立行政法人産業技術総合研究所 ライフサイクルアセスメント研究センター／〒305-8569 茨城県つくば市小野川16-1
Masahiko HIRAO / Graduate School of Engineering, The University of Tokyo / 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8656
Kiyotaka TAHARA / Research Center for Life Cycle Assessment, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology / 16-1, Onogawa Tsukuba, Ibaraki 305-8569

4. 一般講演

口頭発表は、以下のようなテーマ別に24セッションを構成し、1件あたり15分講演、5分討論として、各セッションで2～7件の発表が行われた。ポスター発表は、1時間の独立したセッションとして行われた。

- (1) LCA：LCA手法、ライフサイクル影響評価、
- (2) ライフサイクル的思考に基づく分析手法・指標：環境効率、環境会計、産業連関表分析
- (3) 生産におけるライフサイクル的思考：生産技術、マテリアル、電子機器技術、農業・水産業、建築、システム分析、品質評価、環境経営
- (4) 消費におけるライフサイクル的思考：家庭、消費行動、消費者分析
- (5) 社会システムにおけるライフサイクル的思考：廃棄物処理、エネルギー技術、輸送技術、バイオマス、地域
- (6) LCAソフトウェア

5. 学生表彰

学生のLCA研究とその発表を奨励するために、学生優秀発表者を表彰した。学生による発表として申し込まれ、実際に学生が発表した審査対象は、口頭で26件、ポスターでは14件であった。これには、ダブルエントリー（口頭＋ポスター）で重複している5件も含まれている。優秀口頭発表賞は、1件ごとに実行委員会内に設けた審査委員会があらかじめ指名した審査員3名により、①分かり易さ、②発表資料、③発表時間、④質疑への対応を審査基準として審査が行われ、3名を表彰した。また、優秀ポスター発表賞は、①ポスター・内容の分かり易さ、②説明の分かり易さを審査基準として、発表会参加者が3件を選ぶ投票を行い、2名を表彰した。クロージングにおいて表彰状とともに、副賞として2006年度学生会員会費免除特典が与えられた。表彰された発表は、これからの研究の進展が楽しい、皆すばらしい発表であった。来年度には審査員を選ぶのが大変なほどに学生による発表が行われることを願っている。以下に受賞者の氏名と発表タイトルを記す。

○学生優秀口頭発表賞

慶應義塾大学 成田菜採さん

「室内空気汚染のライフサイクルインパクト評価手法の開発」

名古屋大学 渡辺由紀子さん

「波及効果を考慮したLRTシステム導入の環境負荷評価」

東京大学 菊池康紀さん

「産業洗浄プロセス設計のためのLCAとリスクアセスメントの統合」

○学生優秀ポスター発表賞

早稲田大学 南波泰昌さん

「消費行動レベルのリバウンド効果の潜在性」

東京大学 田中直広さん

「植物資源由来プラスチックのライフサイクル評価」

学生優秀発表の受賞者の喜びの顔

上段左から 田中さん、南波さん、菊池さん
下段左から 渡辺さん、成田さん

ポスター会場での熱心な討論

6. おわりに

第1回目ということで、発表申込件数も参加者数も予想がつかない中、会場規模や予算規模の設定など手探りの発表会運営であった。ふたを開けてみれば、様々な大学・研究機関・企業からの300名近い参加者、他では見られない広い分野からの150近い発表件数を得ることができ、何とか盛会に終えることができた。指名によって就任していただいた実行委員の皆さん、学会事務局、会員窓口の皆さんには、開催方法の議論から当日の裏方まで10ヶ月以上にわたり尽力いただいた。そしてなによりも発表者・参加者の皆さんの熱心な発表と議論なしにはこのような盛会とはならなかった。ここにあらためて感謝の意を表したい。会場にはあふれるくらいの方が発表を食い入るように聞いている姿が思い出される。質疑も白熱して時間通りにセッションを進行できなかった会場もあった。また、交流会では若手（若め）を中心に感想を話してもらったが、ひとえに理事の皆様の暖かい支援の元にあることを感じながらハメをはずさせて頂いた。感謝したいと思う。

会場で参加者に回答いただいたアンケートについては、

現在集計中であり、まとめ次第会誌で報告するとともに、
次回の運営に活かさせていただく所存である。第2回の
開催時期や開催地については理事会・実行委員会で話し
合っており、なるべく早く会員の皆さんにご案内したい。
今回より多くの分野から、より多くの方が参加して、本
会の目的であるライフサイクル的思考に基づいた持続型
社会の構築のための議論を交わす場として成長すること
を願っている。

講演会場

交流会

実行委員会